

各報道機関ご担当者様

<News Release>



※ 受賞結果につきましては、2026年1月28日(水) 午後5時00分以降の開示をお願いします

第32回東北ニュービジネス大賞 各賞受賞者決定

～1月28日(水)ホテルメトロポリタン仙台にて表彰式を開催します～

東北地域における起業家精神の高揚とニュービジネス事業の発展に資するため、当協議会が実施する「東北ニュービジネス大賞表彰制度」の第32回受賞者が決定致しましたのでご報告します。

表彰式は、下記の日時に開催予定の当協議会新春賀詞交歓会のメインプログラムとして執り行います。
また、表彰式に先立ち「スペシャルディスカッション」もございますので、当日の取材をお願いいたしますとともに、記事等では是非お取り上げ頂けますよう、よろしくお願ひいたします。

1. 開催概要

日 時:2026年1月28日(水) 表彰式／16:35～17:10

場 所:ホテルメトロポリタン仙台 4階「千代」(宮城県仙台市青葉区中央1-1-1 TEL:022-267-2245)

<当日のプログラム>

15:05～16:20 スペシャルパネルディスカッション

「東北ニュービジネス大賞」受賞者は全国最高賞である「経済産業大臣賞」を”三連覇”しています

- ・2022年12月「経済産業大臣賞」「地方創生賞」受賞 (株)SHONAI 代表取締役 山中 大介 氏
- ・2023年11月「経済産業大臣賞」受賞 (株)ヘラルボニー 代表取締役 Co-CEO 松田 文登 氏
- ・2024年11月「経済産業大臣賞」受賞 (株)ティ・ディ・シー 代表取締役社長 赤羽 優子 氏

今回は、最高賞受賞者3名の皆様にご登壇頂き、「東北を元気にするために！」をテーマに、受賞により「何がどう変わったか?」、「進行中の新たなチャレンジ！」、「今後のビジョン(夢)とは?」などについて、ざっくばらんにご披露頂き、「東北元気創り」のヒントを探ると共に力強い「勇気」を頂く機会と致します。

16:35～17:10 第32回東北ニュービジネス大賞表彰式

東北ニュービジネス大賞、東北アントレプレナー大賞ほか各賞受賞者の発表・表彰

<表 彰> プレゼンター:大山健太郎TNB名誉顧問・浅倉俊一TNB会長

<総 評> 東北ニュービジネス大賞委員会 審査委員長 学校法人至善館 理事・副学長 大滝精一

17:25～19:00 2026年TNB新春賀詞交歓会

※当日はご来賓・TNB会員企業ほか約170名の参加を予定しております。

2. 今回の受賞者 ※受賞内容詳細は別紙「受賞者一覧」の通り

◎東北ニュービジネス大賞

株式会社 半澤鷦鷯 代表取締役 半澤 清彦 氏 (山形県)

◎東北アントレプレナー大賞 ※2社

レンチナス奥羽伊勢 株式会社 代表取締役 伊勢 隼人 氏 (秋田県)
株式会社 haccoba 代表取締役 佐藤 太亮 氏 (福島県)

◎インパクトスタートアップ大賞

アイラト 株式会社 代表取締役 角谷 優之 氏 (宮城県)

◎地域創生大賞

株式会社 アウトクロップ 代表取締役 栗原 栄見 氏 (秋田県)

3. 当協議会および当表章制度の概要

(1)一般社団法人東北ニュービジネス協議会について

設立 昭和63年8月 会員数 341法人・個人

会長 浅倉 俊一(株)ダイユーエイト 代表取締役会長 兼 CEO)

目的 東北地域の産業・経済発展そして地域社会貢献を目的に、東北広域で業種や企業規模を問わず、様々な業種間交流やビジネスマッチングの事業を行ない、ニュービジネスの創出や起業家の発掘・育成・支援等を行なっています。

(2)東北ニュービジネス大賞表章制度について

平成5年にスタートした表章制度で、今回で32年目を迎えます。

東北地域において新規事業に取り組む企業経営者、社会起業家の方々から広く応募を募り、事業の優秀性等を総合的に評価、優秀者に対して表彰を行なうことにより、ニュービジネス並びにソーシャルビジネスの創出・成長を側面から支援するものです。

<審査委員>

委員長 大滝 精一 大学院大学至善館 理事・副学長・東北大学 名誉教授

委員 山口 有朋 (国研)産業技術総合研究所 東北センター所長

林 由美子 タカラ印刷(株) 取締役相談役

古谷野 義之 東北経済産業局 地域経済部長

福嶋 路 東北大学大学院 経済学研究科 教授

岡井 覚一郎 (株)日本政策投資銀行 東北支店長

針生 英一 ハリウコミュニケーションズ(株) 代表取締役社長

望月 孝 (株)プロジェクト地域活性 代表取締役社長

千葉 儀憲 (一社)東北ニュービジネス協議会 専務理事

<東北ニュービジネス大賞委員会>

会長 大山 健太郎 アイリスグループ 会長

委員長 針生 英一 ハリウコミュニケーションズ(株) 代表取締役社長

委員 当協議会の東北6県各支部長会社で構成

《取材に関するお問い合わせ》

(一社)東北ニュービジネス協議会 常務理事・事務局長 奥田義克 または 常務理事 阿部一義

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-8-13 大和証券仙台ビル10階

TEL 022-261-5817 FAX 022-261-2890 URL <https://www.tnb.or.jp>

e-mail tnb_okuda@tnb.or.jp ※当日の連絡先は、090-9421-9002 奥田あてご連絡下さい。

第32回東北ニュービジネス大賞表彰式 受賞者一覧

当表彰制度は、平成5年にスタートし、今回で32年目を迎えました。

東北地域において新規事業に取り組む企業経営者、社会起業家の方々から広く応募を募り、事業の優秀性等を総合的に評価、優秀者に対して表彰を行なうことにより、ニュービジネス並びにソーシャルビジネスの創出・成長を側面から支援します。

◆東北ニュービジネス大賞◆

商品、サービスやその製造方法、提供方法ならびに経営手法など、事業内容において新規性、独自性、革新性があり、東北地域におけるニュービジネスの発展と地域活性化に寄与すると期待される企業・団体に授与されます。

◆東北アントレプレナー大賞◆

自ら創業し革新性に富んだ事業を行ない、優れた発想・チャレンジの姿勢・地域活性といった起業家精神に溢れ、東北地域におけるニュービジネスの発展と地域活性化に寄与すると期待される経営者・起業家に授与されます。

◆インパクトスタートアップ大賞◆

社会課題解決と持続可能な成長の両立を目指す社会的起業家を対象に、革新的な取り組みで今後の社会に大きな影響を及ぼすことを期待される起業家に授与されます。

◆地域創生大賞◆

地方都市が抱える社会課題に真っ向から取り組み、その地域の交流人口や地域雇用を創出するなど、地域経済の活性化に寄与すると期待される企業・団体に授与されます。

【東北ニュービジネス大賞】

会社名・代表者名	所在地・TEL	URL
株式会社 半澤鶏卵 代表取締役 半澤 清彦 (はんざわ きよひこ)	〒994-0068 山形県天童市大字孝高撤北2050 TEL:023-655-2556	
設立	1960年	従業員数 80人
資本金	2000万円	業種 鶏卵生産・加工・卸売メーカー
事業内容 受賞理由	<p><u>初代から襷をつなぎ卵文化の継承と未来への挑戦を可能にする革新企業へ！</u></p> <p>1960年に現会長の祖父が鶏卵の生産業として半澤鶏卵を創業。その後、近隣の多数の生産者を束ねて販売するほうが成長が加速すると考え、鶏卵の卸売業に集中した。現在は山形県、宮城県を中心にスーパー、百貨店、飲食店、菓子店、旅館などへ販路を開拓し事業拡大を図っている。</p> <p>栄養価が詰まっている卵が、「安くて当たり前」のマインドのままでは生産者は疲弊してしまう。そこで、付加価値のある大手が真似できない、価格競争に巻き込まれない商品として半熟燻製たまご「スマッち」を新しい山形の名産品として打ち出した。塩味付きの半熟燻製卵は年間約150万個の販売実績を占める。半澤鶏卵の独自性は歩みを止めずに進化する組織になること。そのために外的要因に左右されない基盤をつくることが必要であり、それは複数の柱を確立することだった。生産・販売から始まった同社は事業の幅を広げ、卸・加工・小売・飲食店運営と様々な事業の柱を確立し、確固たる基盤を構築している。現在は「スマッち」の輸出実績を踏まえ、「TKG(卵かけご飯)をWorldに」と、海外輸出にも力を入れ拡大が期待されている。</p> <p>今後は農場型テーマパークをつくり、休日に家族が訪れて楽しめ地域社会への貢献・活性化に繋げる予定。卵を通じて初代の良い点を活かし、二代目と三代目がサプライチェーン全体を巻き込みながら様々な革新に挑戦する経営姿勢は「東北ニュービジネス大賞」に相応しいと評価された。</p>	
 半澤 鶏卵		
		

【東北アントレプレナー大賞】

会社名・代表者名	所在地・TEL	URL
レンチナス奥羽伊勢 株式会社 代表取締役 伊勢 隼人 (いせ はやと)	〒018-2504 秋田県山本郡八峰町峰浜石川字石川430-4 TEL:0185-88-8918	
設立	2023年11月	従業員数 35名
資本金	100万円	業種 農業
事業内容 受賞理由	<p><u>地域の衰退よりも速いスピードで ”日本一の椎茸生産地を目指す！”</u></p> <p>2023年に「レンチナス奥羽伊勢株式会社」を設立。単なる組織変更ではなく「日本一の生産農家になる」という長期ビジョンを実現させるための第一歩で、法人化により経営・生産・販売体制を整備し、より多くの仲間と共に事業を拡大する体制を構築した。</p> <p>白神産地の恵みを活かし、肉厚で旨みあふれるジューシーな椎茸を通年生産。菌床の製造から栽培・加工・プランディング・販売までを自社で一貫して手がけ、椎茸の付加価値を高め、常識を覆す「ストーリーブランド農業」を推進している。また、AI/IoTによる環境最適化で、年間を通じて安定供給と高品質を両立。販売は百貨店・量販店・飲食業界・業務用・加工用・ECの6大チャネルで幅広く展開。</p> <p>帝国ホテルEC採用ブランド「黒煌」の展開や、「料理王国100選2026」優秀賞を受賞するなど、使いやすさと品質を両立した商品の革新性が大きな特長である。</p> <p>短期で事業規模を4倍に拡大。YouTubeを通じて現場の生の姿を発信して共感を集め、新規採用27名を実現。地域の若者雇用を生み出し、「地域に未来をつくる農業」の希望を広げている。</p> <p>秋田から全国、そして世界へ、”食で感動を届ける農業ベンチャー”として力強く歩みを進める姿勢は「東北アントレプレナー大賞」に相応しいと評価された。</p>	
 レンチナス 伊勢		
		

【東北アントレプレナー大賞】

会社名・代表者名	所在地・TEL	URL
株式会社haccoba 代表取締役 佐藤 太亮（さとう たいすけ）	〒979-2112 福島県南相馬市小高区田町2-50-6 business@haccoba.com	
設立	従業員数	
2020年2月	8名	
資本金	業種	
550万円	酒類製造販売業	https://haccoba.com/
事業内容 受賞理由		<p>人口がゼロになったまちで ゼロからSakeを醸す！</p> <p>IT系企業に勤務していた同氏が、好きが高じて酒造りを学び、2021年 福島県小高地区に酒蔵を立ち上げた。イノベーションが起きにくいといわれる日本酒産業において、「ならば新たなジャンルごと作ってしまおう」という発想で、わずか2年足らずで酒蔵を増設しながら、銘柄数にして約100種もの「クラフトSAKE」を世に送り出し、国内外に販路を急速に拡大している。2026年夏には東京に体験型醸造所＆バーを開業予定、2027年にはベルギーに醸造所を作る予定だ。</p> <p>福島第一原発の事故によって人口がゼロになったこの町で「ないものは自分たちで作れば良い」と、異分野の他起業家とリンクしながらの地域おこしの取り組みも相まって、酒のみならず「自律的な地域文化」も醸成している。</p> <p>同氏の革新的でできわめて意欲的な事業展開力は「東北アントレプレナー大賞」に相応しいと評価し、今後の商品戦略にも大いに期待するところである。</p>

【インパクトスタートアップ大賞】

会社名・代表者名	所在地・TEL	URL
アイラト株式会社 代表取締役 角谷 倫之（かどや のりゆき）	〒980-8572 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1 050-1721-2917	
設立	従業員数	
2022年3月	15名	
資本金	業種	
7億5,799万8,320円 (資本準備金含む)	医療機器設計、製造、販売	https://airato.jp/
事業内容 受賞理由		<p>誰もが世界最高水準の放射線治療を受けられる社会を目指して！</p> <p>がん治療の中でも身体への負担が少なく極めて重要な「放射線治療」。この治療計画を作成するAIソフトウェアを開発し、従来計画業務に要していた時間を大幅に短縮(94%効率化)地域医療の人材不足などの課題解決を可能とした。</p> <p>医学物理領域の博士で、放射線治療の研究と臨床経験を兼ね備えた同氏が、研究で終わらせずに社会に還元すると強い使命感を抱き、社会実装を成し遂げる信念を持って、自身が大学発ベンチャーの創業社長・起業家として歩み始めた。</p> <p>2026年、国内において薬事承認を取得し1号機を上市する予定。また、今後5か年の中で2号機～3号機を上市を予定しており、アジアのみならず米国市場に参入するプロジェクトが具体的に進行している。</p> <p>世界的に今後2040年までがん罹患者が50%増加と予測される中において、きわめて価値のある重要な技術であり、同氏が世界中の医療現場の課題解決に向けて熱い思いを持って取り組む姿勢は、まさしく「インパクトスタートアップ大賞」に相応しいと評価された。</p>

【地域創生大賞】

会社名・代表者名	所在地・TEL	URL
株式会社 アウトクロップ 代表取締役 栗原 栄見（くりはら えみる）	〒010-0904 秋田県秋田市保戸原の町7-68 TEL:080-7850-6182	
設立	従業員数	
2020年12月	20人	
資本金	業種	
100万円	映像制作事業/飲食業/宿泊事業	https://outcrop.jp/
事業内容 受賞理由		<p>ローカル秋田からクリエイティブ産業を構築して世界を変える！</p> <p>2020年に秋田市で大学の友人と株式会社アウトクロップを設立。大学卒業時に制作した一本のドキュメンタリー映画をきっかけに、映像の力で社会に価値を生み出す道を選んだ。</p> <p>地域課題や企業理念、文化的背景などをストーリーテリングの力で可視化することに取り組み、これまでにブランディング映像、ドキュメンタリー、観光PR映像など多数制作し、それぞれの地域や企業が持つ本質的な魅力と映像を表現してきた。</p> <p>現在では、秋田県内の自治体や観光局をはじめ、国内外の企業、中央省庁など100を超える組織・団体と協働し、地域の物語を国内外に発信するクリエイティブプロジェクトを展開しており、2023年には秋田県芸術選奨ふるさと文化賞を受賞している。</p> <p>その後、映像事業の枠を超えて「人と文化の交わりから新しい産業を生み出す」ことを目指し、2024年に秋田市内に共創複合施設「アトレデルタ」を開設。オープン後は学生、企業、行政、市民が集い、対話が生まれる新しいコミュニティ形成モデルとして注目されている。</p> <p>「ローカルから世界を変える」信念を貫き、映像制作にとどまらず、教育・観光・デザイン・建築など多様な領域を横断しながら、地域の未来を形づくる挑戦は「地域創生大賞」に相応しいと評価された。</p>